

奈良史学

第 1 号

発刊の辞

菅野 正 (i)

論 考

道照伝考

水野 柳太郎 (1)

近世京都における町自治について

山田 敦子 (31)

カール大帝の農業政策

堀内 一徳 (49)

書 評

蕭啓慶著『元代史新探』を読む

森田 憲司 (59)

——元代の士大夫の問題をめぐって——

会 報

1983

奈良大学史学会

発刊の辞

奈良大学史学会 会長 菅野正

奈良大学文学部史学科は、大学創設と同時に設置され、今年、創立十五年目に入った。決して長くない、しかし困難の多い歴史の中で、関係者は努力をつづけ、漸く今日に至った。今、創立十五年を機会に、われわれは、さらに、歴史学の研究、教育の発展を図るべく、「奈良大学史学会」を設立することを発意した。「吾れ十有五にして学に志す」の言葉もあり、今日までの基礎の上にたつて、さらに古人の意を新たにせんとするものである。

「奈良大学史学会」は、その目的を達成するための、事業の一つとして、機関誌の刊行をあげている。それに基づき、ここに『奈良史学』を発刊する。近年、史学関係のすぐれた専門雑誌が、数多く刊行されている。このような際に、新たに『奈良史学』を発刊することは、これに何を加えようとするのか。特別な意図ある訳ではない。ただ、歴史学の研究、教育の成果を発表して、その発展を期し、学会と交流を計り、いささか学界に寄与したい所存のみである。

「奈良大学史学会」は誕生したばかりである。『奈良史学』は第一号発刊によって、第一歩を踏み出すことになった。われわれは、その目的を達成すべく、努力する所存である。さし当りの次の目標たる「而立」へ向って、驥尾に接して進みたいと思う。着実に発展できるように、各位のご批判とご鞭撻をお願いする次第である。

昭和五十八年十二月